

ウィーン工科大学、ビュルツブルグ大学、エコールポリテクニック における短期滞在の報告

物理工学専攻 博士課程2年 野村悠祐

ALPSの海外派遣プログラムとして、2013年11月3日-11月23日までの間、ウィーン工科大学（オーストリア）の Karsten Held 教授のグループ、ビュルツブルグ大学（ドイツ）の Giorgio Sangiovanni 教授のグループ、エコールポリテクニック（フランス）の Silke Biermann 准教授のグループにそれぞれ1週間ずつ滞在し、強相関電子系についての議論や共同研究を行った。滞在期間中、それぞれの場所において、セミナーをする機会を与えていただき、最近取り組んでいた、鉄系超伝導体における電子格子相互作用とそれと軌道揺らぎの関係性を調べた研究について発表した。セミナーにおいては、活発な議論をさせていただき非常に有意義なものになった。また、滞在中にはそれ以外にもそれぞれのグループの学生の方の研究の内容に関する議論や、共同研究に関する話し合いを行い、実際に強相関電子系の複数のトピックにおける共同研究を始めることとなった。

今回の海外派遣によって、研究の視野が広がったというだけではなく、海外に研究者の知り合いができたこと、特に同世代の研究者の友達ができたことは、大きな成果だと思う。今後も何かの機会を利用して、頻繁に海外訪問を行いたいと考えている。



オーストリア、ウィーンのシェーンブルン宮殿